

越後瞽女（ごぜ）唄の響き

かやもり

萱森直子独奏会



瞽女（ごぜ）とは、公的な福祉のない時代、生きるために三味線をたずさえ村々を回っていた盲目の女性旅芸人の事で、伝統が途絶えず引き継がれたのは越後だけでした。

長岡・高田・刈羽・新津など各地に彼女達の足跡が刻まれています。「最後の瞽女」と呼ばれた長岡瞽女小林ハル（1900-2005）から「新津組」「長岡瞽女屋」「地藏堂」の3つの節回しを、また高田瞽女であった杉本シズから「高田の節回し」の計4つを受け継いだ、稀有な瞽女唄継承者、萱森直子さんの魂に沁みとおる声と三味線の響き。

厳しい修行と戒律に耐え、誇り高く生きた瞽女の生き様と、彼女たちの旅を支えた地域の人々の温かさを偲び、現在の日本・日本人が失った豊かさについて考えます。

日時：2014年 11月 23日（日）14時00分～16時00分

会場：新潟大学 駅南キャンパス「ときめいと」（入場無料）

（新潟駅南口プラカー1・ジュンク堂書店の上）

[会場案内]



（ときめいと Tel：025-248-8141）

[演者紹介]

萱森直子（かやもり・なおこ）

新潟市生まれ。長岡・高田両系統のごぜ唄を直接伝授された日本唯一の伝承者として公演多数。現代の解釈や晴眼者の感覚で手を加える事をせず「かつての瞽女の芸を風土や精神性と共に再現できる唯一の歌い手」として高い評価を得る。教職経験をいかし、新潟市内の保育園で唄うなど、ごぜ唄をめぐる環境づくりやごぜ唄教室での後進の育成につとめる一方、津軽三味線グループ「どってん」を主宰、源流を同じくする二つの芸を演じ分ける技能を有する。

主催：新潟大学人文社会教育科学系附置「〈声〉とテキスト論研究センター」（代表：高木裕）

問合わせ：藤石貴代（新潟大学人文学部）tel：025-262-6378 mail：fujiishi@human.niigata-u.ac.jp